令和３年度 第１回図書館協議会 会議録

◎開催日時　令和3年（2021 年）6 月 12 日（土）午前10時～12時
◎開催場所　野洲図書館 本館 会議室
◎出席者　図書館協議会委員９名（五十嵐芳子委員、遠藤正一委員、岡田さゆり委員、岡田知巳委員、高野真知子委員、中村聡子委員、早川久登委員、披岸徹夫委員、松山裕子委員）、事務局２名（図書館長、副館長）
（欠席委員１名・・山本宗司委員、傍聴者なし）

＊配布資料について
ここに掲載した以外の資料については、図書館本館および中主分館で、図書館協議会議事録とともに公開しています。

＊今回は、令和３年５月１日～令和５年４月 30 日の任期の図書館協議会の、任期第１回目の会議です。

１．開 会

２．会長、副会長の選出

互選により、会長に早川久登委員、副会長に松山裕子委員が選出

３．議 事

（1）令和２年度事業報告について
事務局より「令和２年度野洲図書館事業報告（概要）」に沿って説明。
貸出冊数は減少傾向にあったが令和2年度の減少率は大きい。コロナ禍の臨時休館、来館控えの影響も原因。実利用者数は増加している。これは、ポイントカード企画の効果ではないかと思われる。野洲図書館の貸出冊数は全国の図書館の中では多く、平成 30 年度の人口別の全国統計では、5万人～6万人の人口の自治体 77 の中で1位となっている。全国統計の蔵書数では4位、資料費では 15 位となっており費用対効果が他市に比べて高い。（全国統計の令和２年度分は来年集計予定、令和元年度統計も未発表）
市内の子ども１人当たりの児童書貸出冊数も減少している。本館は特に子どもだけでは来館しにくい立地にあるため、保護者に連れてきてもらわなければ利用できない。学校、園、団体などの協力を得てさまざまな取組みをしているが今後も継続して行い、工夫することが必要。この取組みの一つとして、小学校の全クラスに設置して巡回する「としょかん BOX」事業を開始した。子どもが本に親しむためには、子どもの身近に楽しみのための読書に適した本がある環境を作ることが大切であり、「としょかん BOX」はそのひとつの手段。
資料の購入については、令和 2 年度は国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金が1,000 万円つけられた。交付金の約 6 割を使い「としょかん BOX」を整備し、残りの予算で、コロナ禍で特に必要とされる分野の図書館用資料を購入した。令和 2 年度の購入図書は 14,271 冊。うち 4,338 冊が「としょかん BOX」用。
職員研修について。県立図書館との交換派遣研修を実施した。また、コロナ禍で中止された研修も多かったが、例年なら受講できない全国規模の研修等さまざまな研修にオンライン等で参加することができた。

【会長】：質問はありませんか。

【委員】：資料の特集について。（自分は）他の図書館も使っていますが、素晴らしいと思う。特集毎の貸出冊数が数字で表れるのはよいことなので、これからも楽しみにしています。

【委員】：ポイントカード企画について、ポイントがたまった利用者にプレゼントを渡したとのことだが、どのようなプレゼントだったのですか。

【館長】：雑誌の付録やシール、職員手製のしおり、書店の販促用のグッズ、職員が自宅から持ち寄ったものなどささやかなものです。化石教室を毎年開催してくださっている研究者の羽島さんから化石や鉱物の提供もありました。

【委員】：私は小物なども作っているので、使ってもらえたらと思います。

【館長】：ありがとうございます。

【会長】：ほかには質問はありませんか。

【委員】：職員研修の内容はどのようなものでしたか。特集展示は、利用者からのテーマの希望は募っているのですか。

【館長】：研修は、県立図書館主催の図書館員専門講座の前期・後期、国立国会図書館やこども図書館の児童文学連続講座・ヤングアダルト文学について。全国図書館大会も今年はオンライン開催になりましたが、これまでは参加できるときでも1つの分科会にしか参加できなかったのですが、5 つの分科会を 6 人の職員が聞くことができました。近畿の地区別研修も Zoom で三日間開催され、読書バリアフリー法のこと、多文化サービスでの「やさしい日本語」について、スクールソーシャルワーカーの方の講演などを 10 人以上の職員が受講できました。12 の研修のべ 36 人の職員が受講できました。特集展示の希望については、募集はしていますが、昨年度は市民からの提案はありませんでした。

【会長】：はじめにきつめのことを言います。貸出しが減っているということですが、ステイホームで家にいて本を読む時間は増えていたのに、貸出が増えていない。再開館しても利用が落ち込んだままなのは本を読みたい人に本が届いていないのではないですか。コロナなので貸出冊数が県の平均と同じ前年比 87%でいいと聞こえてしまうのは寂しい。図書館に来てもらった人には届いているが、いかに来てもらえるかです。ワクチンの接種が進めばまた自由に来られるようになると期待していますが、利用者にまた図書館に来てもらえるかどうかということです。いま利用が減って、手が空いているうちに何かしないといけない。ちゃんと利用者に返ってきてもらえる取組みをしているのかなと思います。宣伝活動が弱い。駅にポスターを貼る等をしたらどうかと前にも言ったことがありますが、できていない。展示についても、そういうことをやっているということをもっと知ってもらえるようにしなければならない。展示をすると借りてもらえるということは逆に図書館にどんな本があるのかを知ってもらえていない。書庫の本とか、こんな本もありますよと、いかに見せていくか、知ってもらうようにしないといけない。コロナ後に向けて、図書館をどうしていくか、いま考えてほしい。

【委員】：同意見です。昨年の緊急事態のときの「動くな」という状況の中では何かするのは難しかったとは思います。ただ、昨年の状況で学習はできたはずですから、今後、似たようなことになったときに、待っているだけの図書館ではだめだと思うので、飲食のデリバリーのように、家にいる人に情報だけでも届けられるようにしてほしい。次は、閉館になった、何もしない、ではいけない。昨年の学習をもとに、準備してもらいたい。

【委員】：夏に珍しい魚の写真パネルの展示をされていた。かわいらしい展示を見て、じゃあこの図鑑がどこにあるのかなとか見てみようという、いい取り組みとは思います。でも野洲図書館に来ないと出会えない。情報をどう出すかが大事です。図書館だよりを出してはいると思いますが、その中にも書かれていたかとは思うが、マンネリ気味で、見方がマンネリ化してきている。せっかくだから、図書館だよりを工夫してみたらどうでしょうか。それから「としょかんBOX」が2月からはじまっていますが、反響がどうだったか積極的に収集してみてはどうですか。これをすることで、逆に子どもたちの図書館利用が減ることも考えられます。きっかけとして野洲図書館に来ることになるかもしれない。影響を見ていかないといけないと感じます。

【委員】：コロナ禍の中で、家で過ごしているのに、なぜ図書館に来られないのかというと、感染対策がどうなっているのかという気持ちや、自粛やコロナを気にして出渋られているのではないかと思います。マスクや手指消毒など、「図書館ではこういう感染対策をしてお待ちしています」と図書館からメッセージを出していれば、安心する材料になると思います。チラシにも感染対策を書いていないものもあります。
それから、絵本原画展のチラシ案に、「夫人」とか「～氏」という表現がありますが、言葉の選択がふさわしくないのでは、発信としては改めた方がと思いました。

【委員】：資料編の統計で、前年比の載っていない項目があります。たとえばHPの閲覧数がコロナ下でどうなったかなど、分析に使えるのではないですか。実利用者とか貸出数とか、年齢階層別に統計を出して、利用の動きがどうなのかを統計分析に使ったらどうでしょうか。たとえば30代、40 代の女性と就学前の子どもの利用は連動しているはずです。分析ができれば各層別のターゲットを絞ったアプローチができるはず。たくさん貸出があったという特集展示の「はじめての海外文学」については、ツイッターでかなり全国的にもリツイートされていました。もしかするとそれを市民も見て足を運ばれたのではないかと思います。図書館がアカウントを持っていなくても、書店や出版社にツイートしていただければ広げてもらえる宣伝手段になります。守山市の本屋さんがみすず書房の特集をしようとしたら、みすず書房が「田舎にもうちの読者がいるのか」と言われたが、たくさんそれが売れたというのが話題になっていました。こういうことは市民も見ています。

【館長】：HPの閲覧数の統計については、これまでの統計が資料編のP38 にあります。確かに昨年度は閲覧件数が増えています。

【委員】：野洲図書館のHPを見たことがないのですが、図書館のコロナへの対応は書いてあるのですか。

【館長】：書いてあります。

【会長】：野洲図書館の HP には、統計情報が過去からかなり掲載している。他の図書館はあまり掲載していないところもあります。滋賀県の中でもばらつきがある。横並びで合わせていただけるように県立図書館には働きかけをしてほしい。資料 9 の県内図書館の統計はどこかに出ていますか。

【委員】：県立図書館の HP の事業概要に掲載されています。

【委員】：ほかにはご意見はありませんか。では、次の利用者アンケートについて、事務局から説明お願いします。

【事務局】：（アンケートについて概要説明。）2 月に実施。コロナ対策のためにいつものように対面ではなく、自由に取れる場所で配布して 1 か月かけて回収する形で実施した。回収枚数は前年の 590 枚から 753 枚に増えて、方法としては有意だった。今回のアンケートの特徴として、本のご希望とか、図書館での過ごし方での設問でコロナ禍での影響が感じられる回答が多かった。図書館利用が難しか

った年であったにもかかわらず図書館に対する評価については満足というご回答をたくさんいただけたのはよかった。一方、不満というかたもいらっしゃるので、個別意見等を参考にしながら、細かい要望にも丁寧に対応できるように検討していきたい。いくつかの点については改善に着手している。アンケートのグラフを見ると、大体いままでと同じ傾向で推移している。職員の対応については満足という回答をたくさんいただいていますが、おごらず改善していきたい。アンケートは HP には公開している。（6 月下旬から 9 月まで図書館ロビーで掲示予定）

【会長】：何かご意見ご質問などありますか。

【委員】：守山市の図書館新館ができたとき同じような質問をしましたが、守山では読書通帳をしていますが野洲では予算的にもシステムでも難しいですか。

【館長】：予算のこともありますが、読書通帳についてどう考えるかは、野洲図書館としては、子どもにとってはよいことではないと考えています。読める子はいいのですが、たくさん読むことがよいことかというところです。たくさん読めなくても 1 年に 1 冊でも、一生の間に 1 冊でも、という先生もいますが、自分が感動する本に出合うことが大事なのであって、冊数を読むことがよいことだというメッセージをたくさんの子どもたちに与えてしまうと、読める子はいいのですが、時間がかかってしか読めない子に無言のメッセージとして、自分はできないのだと思わせることもある。費用もかかります。読書通帳の機器を寄贈してもらったとしても、コンピュータシステムの改造や維持費もかかります。希望する人は、メモやレシートで個人で記録していただけたらと思います。たくさん読もうよというメッセージはあまり伝えたくない。

【委員】：自分の読書履歴を残しておきたいので、今は貸出レシートをノートに貼り付けたりしている。自分で作るしかないですね。

【委員】：守山市立図書館を娘が利用したときに、読書通帳は、いいなぁと言っていました。

【館長】：うれしい人にはいいと思う。それは否定するものではありません。

【委員】：読書通帳は、過去の自分の貸出履歴が全部残ってくるわけではないのですか。

【委員】：図書館の返却時に貸出履歴は消えるようになっているはずです。読書通帳は、貸出の情報を通帳のサーバにひと月とか一定期間保存しておいて、印字すると消えるというものらしいです。遡って何年も履歴を保存している、というものではないと聞いています。

【委員】：読書通帳とポイントカードはどこかで関係するものなのですか。

【館長】：それは関係しません。ポイントカードは、図書館のカードを作ろう、図書館に行こう、図書館を使おう、というための企画です。読書通帳は、自分が借りた本が通帳の形で印字されるという楽しさはあります。

【委員】：基本的にポイントカードは、図書館に来ようよ、というもので、図書館は知識の森ですし、図書館に行ってみて、騒いだらだめだけど、本棚の林の中を通っていってぼーっとみてみるだけで、その中でこんな本、あんな本、虫や自然、いろんな本を読めるようになったら、こんな本も読めるんだなという、いろんな発見の場であってほしい。ポイントカードは、来たよ、カード作ったよ、借りたよ、という中での子どもたちにとっては段階的な大切な楽しみ。通帳となると、残高がどれだけいったか、ということになる。読書通帳は、上手に使うかたはよいのですが、守山図書館の発想としては来館者数や貸出を増やすための一つの手段としてのアイディアかもしれません。速読でたくさん読むのを楽しみにするのもいいけれど、ゆっくりじっくり読みたい、読まなくても、図書館の中で資料を探したいという発想からする

と違うかもしれない。館長が読書通帳についてそう思われていることと同じように思います。

【委員】：私の経験ですが、小学生のときに図書館で小さいノートを１冊渡されて、１冊借りたらシールを１枚もらえた。自分で本の名前をノートに書いてシールを１枚もらったのが、すごくうれしかった。これだけ読んだなとか、友達を見せ合いっこしたりとか、子どもたちの中でもブームになっていました。私も図書館へ行ってみようとか、図書館を使うきっかけになった子どもはたくさんいたと思います。行くきっかけにはすごくなった。

【委員】：ポイントカードはたくさん借りたら、たくさんポイントがつくのですか。

【事務局】：来館、登録、貸出をするごとに、１日１回押印してポイントがつくようにしていました。何冊借りても、印を押すのは１日１回だけです。

【委員】：冊数を競うものではないのですね。たくさん読めない子はそれだけで劣等感がある。自分は本を読むのが遅いしとか。競わないというのはあまり読めない子にはやさしい。学校で競争じゃないですか。なんでも競争で劣等感の中にあるので、図書館がそういう形でやさしいというのは来やすいと思います。

【委員】：新刊の話ですが、他の図書館は、新刊の冊数が少ないが本の背文字の写真を掲示したりしています。文字のリストだけあるのと全然違ってイメージが伝わる。文字情報以外に新刊の情報があれば、貸出中なら予約してみようかとか、展開ができる。

【館長】：職員の中からも同じ意見がでていて、実施する方向ですすめています。

【委員】：蒲生図書館がすごく上手にしています。ワクワクさせるようなコーナーがある。

【委員】：アンケートで回答した人の年齢を見ると、60代以上の人の割合が多いのが面白い。割と肯定的な意見が多い。日本一の図書館とか書いている。すごく褒めてあって、いいなと思いました。新刊がない、もっといれてほしいという意見はある。

【委員】：新刊はすぐに借りられるので棚には残らない。棚には専門書やマニアックなものばかり残っている。でも今月は実はこれだけ新刊が入っているというのが、紙ベースだけじゃなくて背表紙があるだけで、すごく伝わってくる。守山の図書館もやっています。

【委員】：読書通帳に関して、館長の言ったことはいいことだと思うんですが、話がでて、通帳について考えて結論は、どこかに出ているのですか。

【館長】：読書通帳はいい人にはいい。これを喜んでいる人もいるし、一生懸命やっている図書館もあるので、公式には出していません。

【委員】：野洲はこのように考えているよ、というのをここだけで留めているのは惜しいなと思った。

【委員】：たとえば、利用アンケートでは、読書通帳を入れてほしい等の意見はありましたか。

【館長】：あったと思います。文章だけで説明すると否定したと思われる人もいるので難しい。

【委員】：例えば野洲図書館のスタンスを広報とか図書館だよりに載せてみたりして、アピールまでは苦手かもしれないけど、そういう流れで野洲図書館はあるんだというのを HP でもさりげなくでも載せておくと、浸透するのではないでしょうか。そういうことも考えてもらえるとよい。

【委員】：市内の学校でも読書貯金や、中学校でも読書ノートをやっている学校もあります。読書の習慣づけのスタートとしてはいい。親しむということでは。中学生を見ているとそれをきっかけに読み深めてグーっと伸ばしていける子はいい。読書への取り掛かりとしてはいいのですが、館長がいうことには賛成かと思います。

【会長】：では次の議題の図書館評価について

【事務局】：（資料に沿って説明）図書館の評価は平成 30 年からスタートした。昨年度の野洲図書館の活動の実績について13の項目を設定した。先に報告したアンケート結果も、この評価に関わってくる。令和２年度の図書館の自己評価については資料に記載のとおり。貸出等に関する項目については、軒並み下がっているため、数値で自己評価するとどうしても C ばかりとなる。後半の項目で A としているところもあるが、接遇等でも全員満足ということではないので、おごることなく改善に努めたい。

【会長】：図書館協議会がしなければいけないのは、この外部評価をすることです。次回の会議で議論したいと思います。コロナ禍のなかで、数値目標を見ても意味がないかもしれませんが、どちらかといえば提言の方を考えたい。

【委員】：令和３年度の計画をあげるときに、年々の減少傾向で数だけ追いかけてもだめで、具体的な取り組み内容、努力目標と努力内容を盛り込んだ計画を提示すると評価しやすい。たとえば、こういうことで貸出の減少を食い止めたいとか、そういう何かがあるとうれしい。マンネリ化をしないようにやってほしい。

【会長】：図書館評価は、基本的に目標数値を下げるのはだめだということでやっています。3 年間は下げないということでやっていますが、コロナは特殊事情なのでどうするかです。図書館の価値として、貸出冊数は非常に重要なバロメーターなので、いいところだけ使うのではなく、使うならきちんと使っていきたいが、令和2年度については数値にこだわる必要はないのではないかと私は思います。次回議論したいので、考えてください。

【会長】：次の議題、図書館の今年度の事業方針について、事務局より説明お願いします。

【館長】：（資料 11 に沿って今年度の事業方針、事業予定を説明）

【会長】：質問はありませんか。

【委員】：「としょかん BOX」の中学校への拡大は考えていませんか。

【館長】：検討はしましたが、中学校まで広げる予算が足りなかったのと、中学生になると興味の範囲が多様化してくるので選書が難しくなります。年齢が高いほど難しい。限られた冊数で、子どもたちの役に立つ本が用意できるかどうかは難しい。

【委員】：雑誌の「ダ・ヴィンチ」はよいです。これを学校に渡すとかはどうでしょうか。

【館長】：それなら、図書館から回すよりは、中学校の予算としてつけてもらった方がいいと思います。

【委員】：学校の図書館は、新しい本が全然ないイメージで、あっても機能していない。もっと連携できるような取り組みができればと思う。中学校に「としょかん BOX」がないのは寂しい。きっかけづくりをいっしょに考えたいと思いますがどうですか。

【委員】：小学生は1日の生活の中で本を読む時間が結構あります。朝の会が始まるまでに読むとか、たとえば課題ができるのが早い子が待っている間に読みましょうとか、給食を用意するときに給食当番ではない子どもは読書をして待ちましょうとか、少しの時間なんだけれど断続的に時間があって、学級文庫から本を出してきてみるとかしている。中学校は朝の読書の10分は確保して穏やかな気持ちで一日始めましょうとしていますが、3年生になると入試対策とか、いろいろなことが入ってきて、なかな

か読書をする時間が少ない。本が好きな子はちょこちょこと読んではいますが。図書室の様子は新刊は少ないのはそうですが、随分改善されてきました。年間これだけは新しい本を買いましょうという図書の予算はあって、選書も野洲図書館に協力していただいたりして、こんな本があるというのを教えてもらって買ったりとか、古い本がずらーっと並んでいるような昔よりは改善されてきました。好きな子は、図書委員がいろんな読書推進をしましょうといういろんなメッセージを貼ってくれたりとか、昼休みも中学校は短いけれど、生徒が図書室に行って本をさわっている様子はあります。たくさん読んでいるかというとそうではないですが。

【委員】：読む頻度としては、小学生くらいの頻度をイメージしているのではなく、たとえば生徒会室とか保健室に「ダヴィンチ」があったら、なんやろうと思ってきっとみると思うんです。身近な世代が本の紹介をしているのでかなり面白いし、新刊もかなり載っているし、いい雑誌だと思う。本に入るきっかけに、ちょっと置いてほしい。

【委員】：保健室は、体調の悪い子が使う場所なので、本を読まれたらちょっと困るんです。図書室か学級文庫になると思います。

【委員】：議事録をみていると、野洲市は市内の小中学校に学校司書の設置がないというのが書いてあって、そこの弱いところを連携できる取組みがいるんじゃないかと思います。

【委員】：そうなんです。学校によってはスクールサポートスタッフを、図書室を中心にしてもらったりもしているのですが。司書教諭は日ごろの職務や授業や部活を持っており忙しいので、難しい。学校司書を置いてくださいといっているのですが。ALT も配置されていません。

【委員】：先生方の負担が大きすぎるので、ぜひ、学校司書を置いてほしい。

【委員】：校長会等やいろんな場面で学校司書を置いてほしいということは何度も言っているのですが。特別支援教育の支援員の配置は他市と比べて充実しているのですが。今後も言っていきます。

【委員】：たとえば、大学生のイベント的なものが考えられないか。新刊や話題の本を複数用意して希望する人に読書会を開催するなどして、そういう人を募るとか、やっていただけないかなと思います。最初は反応がなくてもやっているうちに反応があったりとか、何もしないよりは、図書館でちょっと新しいことをやりはじめる年になってもいいかなと思います。場所が難しければオンライン参加にするとかだと参加しやすくなりますし。

【館長】：参考にさせてもらいます。若い人にどうやって楽しんでもらえるかは考えたいと思います。

【委員】：自分が希望した本を買ってくれる経験を大学生はあまりしていないのではないでしょうか。図書館は、市民の知る権利を満たしてくれるところで、図書館に来たらこんな本があるというのを体験してほしいので、そのきっかけづくりをしてほしい。電子書籍の充実について、青空文庫を図書館のシステムに入れるなどは難しいですか。図書館の HP に青空文庫のリンクがある図書館もあります。青空文庫いがいにも電子図書が充実している図書館もあります。大学生は、日中は図書館を利用できません。開館時間延長を望む声もありますがコストがかかるし、電子書籍が使えれば、いつでも図書館が使えますし蔵書数も増やせますし、こういうことで補うこともできると思います。ぜひ入れていただきたいと思います。

【館長】：青空文庫は図書館のインターネット用端末で今でもみられるのですが、HP へのリンクについては調べてみます。

【委員】：それから、大学でやっている産学官連携で、一般市民向けにたくさん講座やセミナーがされている

のですが、大学の HP を見にいかないとわからなくてとても調べにくい。たとえば立命館大学のサイエンスライティング講座とか京大の集中講座とか、オンライン講座を無料でやっているし、滋賀県も10 くらい大学はあって、それぞれなにかしらやっています。本で知識を得るのも大事ですが、専門の方が解説してくださるのですごくヒントになることがある。知りたい人が知ることができるように、情報を図書館で情報を集めておくとか考えてほしい。

【会長】：ほかにはありませんか。では、その他について。

【館長】：現在、空調機が故障しており、ご不便をおかけしている。早く修理をする予定です。

【委員】：図書館協議会に教育委員会の人は出席していただけないのでしょうか。

【館長】：出席の希望があることはお伝えしています。

令和３年度　第１回図書館協議会　次第

令和３年６月１２日（土）
野洲図書館　本館
午前１０時～12 時

１．開　会

２．あいさつ

３．自己紹介

４．会長、副会長の選出

５．議　事

（１）令和２年度事業報告について

（２）令和２年度来館者アンケートについて

（３）令和２年度図書館の評価について

（４）令和３年度図書館事業方針（修正版）

（５）その他

＊次回の会議予定

６．閉　会

配布資料一覧

事前送付資料

① 令和２年度野洲図書館事業報告
② 令和２年度度図書館の評価について（内部評価　簡易版）
③ 令和２年度利用者アンケート結果報告

当日配布資料

④ 野洲市図書館条例
⑤ 野洲市図書館管理運営規則
⑥ 令和３年度野洲図書館協議会委員名簿
⑦ 野洲図書館の利用の推移について（グラフ）
⑧ 資料の特集展示貸出数
⑨ 令和２年度　滋賀県の図書館統計
⑩ 令和２年度　図書館の評価について（修正資料）
⑪ 令和３年度　図書館事業方針（訂正版）
⑫ 一日図書館員チラシ
⑬ 山本忠敬原画展チラシ
⑭ 図書館関係記事
⑮ 図書館だより　６月号
⑯ 図書館カレンダー
⑰ 事前送付資料「図書館事業報告」訂正ページ

新委員配布資料（事前送付）

⑱ 図書館協議会について
⑲ 図書館評価について
⑳ 図書館の評価（令和元年度分）
㉑くらしのなかに図書館を　～これからの野洲図書館のあり方について～」(提言)
野洲市図書館協議会　平成 26 年（2014 年）3 月
㉒滋賀県公共図書館協議会　わたしたちの図書案キャンペーン委員会
編「しってる！？わたしたちの図書館」

資料⑥

野洲市図書館協議会委員

令和3年度

任期：令和3年（2021 年）5 月 1 日～令和5年（2023 年）4 月 30 日

50音順

氏名	所属	備考
五十嵐（イガラシ） 芳子（ヨシコ）	読み聞かせボランティア	3
遠藤（エンドウ） 正一（マサイチ）	学識経験のある者	4
岡田（オカダ） さゆり	野洲養護学校教諭	1
岡田（オカダ） 知巳（トモミ）	滋賀県立図書館課長	4
高野（タカノ） 真知子（マチコ）	野洲中学校長	1
中村（ナカムラ） 聡子（サトコ）	公募委員	5
早川（ハヤカワ） 久登（ヒサト）	社会教育関係者	2
披岸（ヒギシ） 徹夫（テツオ）	公募委員	5
松山（マツヤマ） 裕子（ヒロコ）	学校応援団　図書館ボランティア他	3
山本（ヤマモト） 宗司（ソウジ）	北野小学校校長	1

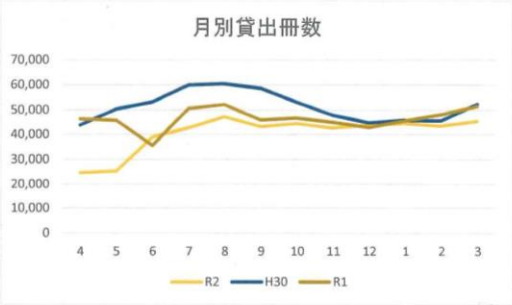
1．学校教育関係者　2．社会教育関係者　3．家庭教育の向上に資する活動を行う者
4．学識経験のある者　5.その他教育委員会が認める者

野洲図書館　利用状況の推移

資料⑦

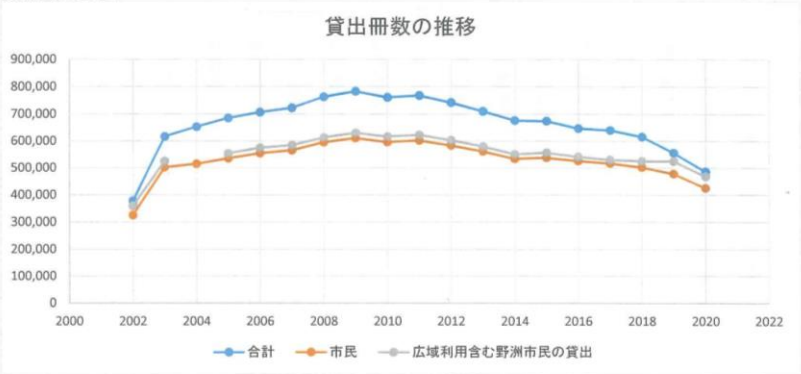
①月別貸出冊数

	本館	中主	R2	前年比	H30	R1
4	22,974	1,670	24,644	−46.7%	43,693	46,273
5	23,532	1,663	25,195	−44.9%	50,316	45,702
6	36,009	2,855	38,864	9.7%	53,162	35,436
7	39,045	3,505	42,550	−15.8%	59,772	50,525
8	43,608	3,576	47,184	−9.5%	60,315	52,134
9	39,603	3,462	43,065	−6.0%	58,526	45,792
10	41,166	3,198	44,364	−4.9%	53,093	46,634
11	39,206	3,357	42,563	−5.1%	47,734	44,865
12	39,956	3,706	43,662	2.0%	44,635	42,785
1	40,962	3,500	44,462	−2.2%	45,681	45,448
2	40,028	3,331	43,359	−9.7%	45,554	48,005
3	41,839	3,467	45,306	−12.0%	52,425	51,491
合計	447,928	37,290	485,218	−12.6%	614,906	555,090



②貸出冊数の推移

	合計	市民	広域利用含む野洲市民の貸出
2002	377,676	324,580	358,762
2003	616,006	502,121	524,532
2004	652,486	514,260	
2005	685,285	534,890	553,532
2006	706,068	553,632	574,591
2007	722,401	564,934	584,081
2008	761,820	594,196	613,081
2009	781,864	610,109	630,146
2010	759,692	595,115	616,064
2011	767,040	601,017	622,559
2012	741,527	582,419	602,506
2013	710,051	560,694	580,011
2014	676,144	532,775	550,284
2015	674,122	536,814	556,503
2016	646,153	525,437	540,979
2017	639,520	516,736	530,563
2018	614,906	502,055	525,184
2019	555,122	477,687	524,809
2020	485,218	425,189	468,364



③野洲市民の広域利用の推移（貸出冊数）

	守山図書館	草津図書館	栗東図書館	合計
2002	21,292	6,295	6,595	34,182
2003	9,507	8,602	4,302	22,411
2005	6,873	8,240	3,529	18,642
2006	7,882	7,213	5,864	20,959
2007	8,082	5,440	5,625	19,147
2008	8,636	5,317	4,932	18,885
2009	11,078	6,415	2,544	20,037
2010	11,815	6,156	2,978	20,949
2011	12,787	6,065	2,690	21,542
2012	12,168	5,845	2,074	20,087
2013	12,049	4,943	2,325	19,317
2014	11,194	4,155	2,160	17,509
2015	13,651	4,103	1,935	19,689
2016	9,326	4,291	1,925	15,542
2017	8,135	3,712	1,980	13,827
2018	17,719	3,459	1,951	23,129
2019	41,697	3,480	1,945	47,122
2020	38,450	2,828	1,897	43,175

④野洲市民の3市の図書館の利用を100としたときの3市の市民の野洲図書館の利用の指数

	守山市民	草津市民	栗東市民
2002	143	43	60
2003	774	66	234
2005	1502	89	320
2006	1344	120	169
2007	1380	151	160
2008	1374	147	188
2009	1106	94	335
2010	995	100	367
2011	906	157	402
2012	925	146	533
2013	853	176	567
2014	878	199	611
2015	718	166	612
2016	1011	93	416
2017	1199	103	345
2018	514	126	261
2019	135	95	186
2020	108	99	196

資料 ⑧

資料の特集展示　貸出数（令和2年度）

		タイトル	貸出数
一般	14	月を愛でる(20.9)	144
	15	認知症と生きる(20.9)＊	42
	16	自殺予防週間(20.9)＊	6
	17	同和問題啓発協調月間(20.9)＊	19
	18	動物愛護週間(20.9-10)＊	11
	19	読む×動く～カラダを動かしたくなる本～(20.9-10)	157
	20	日本骨髄バンク(20.10)＊	13
	21	がん検診 (20.10)＊	8
	22	写真を撮ろう(20.10)※「巨大フォトモザイクアート写真募集」連動特集＊	8
	23	日本骨髄バンク(20.10)＊	13
	24	人材バンク臨時就職相談会連動特集(20.10)＊	6
	25	長倉洋海さんがかいた本(20.10-11) ※長倉洋海さんパネル写真展関連特集	33
	26	手作り工房(20.10-11)	153
	27	たいせつなもの(20.11-12)※図書館職員POP特集	105
	28	児童虐待防止月間(20.11)＊	24
	29	女性に対する暴力(20.11-12)＊	2
	30	コロナ禍を生きる(20.11-21.3)	1424
	31	文字・ことばをあじわう(20.12) ※動画展示『あ』(谷川俊太郎さく)関連特集	162
	32	人権週間(20.12)＊	1
	33	おせち＆おもてなし料理(20.12)	29
	34	鈴木登紀子(ばぁば)追悼特集(21.1)	5
	35	SDGs～わたしたちが決める未来のカタチ～(21.1)	72
	36	追悼半藤一利さん(21.1)	62
	37	追悼安野光雅さん(21.1)	150
	38	長倉洋海さんの本(21.1)※長倉洋海ミニ写真展関連特集	12
	39	おうち時間　なにして過ごす？(21.1)	115
	40	はじめての海外文学(21.2)	278
	41	がん検診(21.2)＊	6
	42	女性の健康週間(21.3)＊	4
	43	自殺対策強化月間(21.3)＊	9
	44	東日本大震災3.11～あれから10年 今、そして未来へ～(20.3)	113
	45	渋沢栄一とその時代(21.3)	104
児童	7	14ひきのシリーズといわむらかずおさんのほん(20.9)	163
	8	お月さまと夜空のほん (20.9)	
	9	秋の本 (20.10-11)	378
	10	ふゆ(20.12-21.2)	412
YA	4	-with books 2020(20.7-9)	6
	5	風になる(20.7-9)	45
	6	音を楽しむ(20.10-11)	84
	7	考える。セカイのこと、ワタシのこと。(20.12)	30
	8	このライトノベルがすごい！(20.12)	107
	9	今だから伝えたい～I Like You～(21.1-2)	179
	10	冒険の旅(21.3)	58
郷土資料	3	もっと知りたいびわ湖のこと(20.7-9)	5
	4	山へ祈る(20.9-10)	15
	5	見る知る楽しむ！琵琶湖博物館(20.11-12) ＊	6
	6	永原御殿ここにあり (21.1-2) ＊	21
	7	湖国を撮る(21.3)	6

8月31日にリリースされたプログラムにより集計。
そのため、9月以降の貸出数のみ集計されている。

＊9月以降の貸出数のみ

＊9月以降の貸出数のみ

＊9月以降の貸出数のみ

野洲図書館　図書館の評価（令和2年度）

資料⑲

↓この欄は参考として令和元年度の外部評価を記載しています

	分野	項目	目標		備考	令和２年度の取組み方法	実績		自己評価	課題・今後の取組み等	外部評価	外部評価の意見
1	貸出	貸出冊数（個人貸出、市民＋在勤者）	H30(2018)	539,900	【　】内は一日平均	①ブックトークやおはなし会のときのPR（「お友達を誘って図書館へ」） ブックスタート時に、本を渡すだけでなく図書館の利用のメリットをPR ②市内施設へのチラシの配布 ③本庁ブックポストの存在感を上げる ④「未館者と本との出会いのきっかけ作り」 ・特集コーナーを目立たせる ・中央特集コーナーの設置頻度を上げる（最低年6回） ・カウンターの「今日のおすすめ」 ・冊作り（棚内の表紙見せやPOPのような工夫） ⑤学校への館外奉仕の拡大もしくは学校図書館への支援の拡大 ⑥選書の質の向上	H30	524,094【1878】	C	■前年比24314冊減（△11%） ■図書館の施設の魅力、棚（蔵書）の魅力を比較して、守山を使いたい市民層が一定存在する。 ■「図書館を使っていない野洲市民」に図書館を使ってもらうエ夫（関連項目　6、7） ■「図書館を使っている野洲市民」がもっと借りたいと思う棚になっているかどうか（書架・蔵書の魅力、借りたいときに借りられる棚になっているかどうか（十分な複本）、必要な冊数借りられる蔵書の厚み（同ジャンルの種数）があるかどうか ■図書館を利用するメリットの提示	C	・目標達成していないためC評価。 ・もはや昔のように貸出冊数が増えていくという時代ではない。今であれば、例えば市民一人当たりの貸し出しが年10冊を下回らないようにどうするかを考えてはどうか。 ・今のレベルを下回らないように毎年の本代の確保をしてほしい。 ・中主をはじめ、市域全体の利用、遠方からの利用をどうするか ・今後、コロナの影響が数字に出てくる。 ・閉館した日数に対する貸し出しの冊数を見るようにするべき。 ・社会的な傾向を見て、目標設定自体をどうするか考えていく必要がある。達成度の数字記載や表現の工夫など ・アンケートに「新しい本が少ない」と書かれる。新しい本、人気の本が入っているとわかる工夫をしてほしい。
		「提言」の該当箇所	R1(2019)	539,900			R1	499,780【1844】	C		C	
			R2(2020)	539,900			R2	444,554【1723】	C			
			R3(2021)	539,900			R3					
		（１）～（11）	R4(2022)	550,000			R4					
2	貸出	中主分館の貸出冊数（個人貸出、市民＋在勤者）	H30(2018)	38,800		①購入図書の内容見直しおよび本館の資料との入替え（R2年度目標3000冊） ②"ない本でも借りられる"ことのPR ③中主利用の利便性をあげる仕組み づくりの検討（ホームページからの在架資料への予約など ※例.中主で借りたいが本館にしか在架資料のない本への予約）	H30	37,727	C	■前年比4,278冊減（△11.4%） ■中主分館の蔵書の魅力を上げるため、R2に中主分館の蔵書の入替を実施。（3,380冊　中主分館の開架一般書の18.9%　本館は8.8%）今後も通常業務として継続して定期的に入替を行い、一般書は新刊も含めて年間で10%の更新をするようにする。	C	・お話し会など、以前よりは人が来るようになっているとは思う。ただ、中主地域全体としてはまだまだ中主分館に足を運ぶ機会が少ない。コミセンや自治会への配本する等を考えてほしい。 ・高齢化が進み、図書館へ来られなくなる人が多くなる。図書館の在り方を長期的に考える必要がある。 ・本館よりは減少の割合が少ない。 ・中主小、中主中へは館外貸し出しをしている。こういう機会を地域の人へ聞くことも考えていければよい。 ・中主地域は協力的な地域性。コミセンなどでの本の管理のボランティアを募れないか。 ・図書館に関わりを持ちたいという人がいる（ボランティア、講座参加者）。こういう人に、図書館へ相談できるということのアピールをしてほしい。
			R1(2019)	38,800			R1	37,449	C		B	
			R2(2020)	38,800			R2	33,171	C			
		「提言」の該当箇所	R3(2021)	38,800			R3					
		（１）～（11）	R4(2022)	39,000			R4					
3	貸出	人口一人当たり貸出冊数（合計）	H30(2018)	12.7【9.6】	【　】内は市民のみの数値	①一般向け利用啓発のポスター（チラシ）作成 ②転入者向け簡易案内作成 ③市内の会社向けの利用案内作成	H30	12.1【9.2】	C	■前年比-1.2冊（【-0.5冊】） ■貸出冊数が減少する中、関連して人口一人当たり貸出冊数は減少する。他の項目と同じく、野洲市民の利用・貸出冊数を増やす（減少させない）取り組みが必要	C	・【　】内の数字をどう扱うか。この数字だと他自治体との比較がしにくくなる。 ・「日本の図書館」の統計では、人口区分5万人～6万人の約30市の中で野洲市は貸出冊数がトップであり、全国的に見て低いわけではない。 ・目標設定時の数値は、どの図書館も達成しづらくなっている。
			R1(2019)	12.7【9.6】			R1	10.9【8.7】	C		C	
			R2(2020)	12.7【9.6】			R2	9.5【8.3】	C			
		「提言」の該当箇所	R3(2021)	12.7【9.6】			R3					
		（１）～（11）、（14）	R4(2022)	12.8【9.7】			R4					
4	貸出	市の児童一人当たり貸出冊数（市民のうち児童）	H30(2018)	12.7	市内の児童（0歳～12歳で積算）の貸出	①児童向け読書案内作成 ②児童書を題材とした展示会を開催し、合わせて関連本を特集 ③学校・園に出向いた際に図書館の利用をPR ④市内3小学校にて、コロナ対策のうえブックトーク実施 ⑤市内4小学校にて、コロナ対策のため形式を変更したお話会の実施	H30	12.8	A	■前年比-1.2冊 ■学校や園と連携しながらの取り組みは一定の成果が出ていると思われる。取組み内容によっては、統計に上がらないことがあるが、子どもと本をつなぐことを目的としてすすめていくことが必要。 ■普段の生活の中で、図書館に来て本を借りる子どもを増やしたい。図書館の立地は子どもだけでの来館は難しいため、親に連れてきてもらう必要がある。	A	
			R1(2019)	12.8			R1	12.2	C		B	
			R2(2020)	12.8			R2	11.0	C			
		「提言」の該当箇所	R3(2021)	12.8			R3					
		（４）（５）（14）	R4(2022)	12.9			R4					
5	貸出	団体貸出冊数	H30(2018)	28,200		①新型コロナウイルス感染拡大による閉館時においても、団体貸出サービスを継続し、その旨文書にて周知（14件利用あり） ②読書活動推進講座中止のため、PR文書を各学校、園へ持参し直接PR ③新型コロナウイルス感染拡大により実施見合わせとなった出張貸出事業の調整を行い、2学期より順次再開 ④市内全小学校の全ての教室に「としょかんBOX」を配備	H30	24,994	C	■小学校には「としょかんBOX」の巡回事業を開始。団体貸出セットは解体して「としょかんBOX」に組込済。小学校の読書用の個別の団体貸出は今後は大きく減少すると思われる。	C	・前年より増えている。 ・学校などとの連携をすすめてほしい。
			R1(2019)	28,200			R1	26,673	C		B	
			R2(2020)	28,200			R2	21,954	C			
		「提言」の該当箇所	R3(2021)	28,200			R3					
		(11)	R4(2022)	29,000			R4					
6	登録	市民の登録率	H30(2018)	21.8%	市民の実利用者数 市の人口	①一般向け利用啓発のポスター（チラシ）作成 ②転入者向け簡易案内作成 ③市内の会社向けの利用案内作成 ④小学校・中学校への登録の働きかけの実施を検討	H30	20.4%	C	■統計上の登録率は増加。H30より2%（約1000人）の増加。貸出冊数も新規登録者も減少している中での数値のため、ポイントカード企画による利用増の可能性もある。	C	・システム更新のため、正確な数値が出ないとのこと。今年度は評価をしない。
			R1(2019)	21.8%			R1	－	－		－	
			R2(2020)	21.8%			R2	22.6%	A			
		「提言」の該当箇所	R3(2021)	21.9%			R3					
		（１）（14）	R4(2022)	22%			R4					
7	登録	市民の新規登録者数	H30(2018)	1,180人		①転入者への働きかけ ②ブックスタートにおいて赤ちゃんから登録可能な点をPR ③小学校・中学校への登録の働きかけの実施を検討	H30	1,092人	C	■前年比　△71人 ■11月～12月にポイントカード企画により、この期間の新規登録は前年より増えた。 ■転入、出生以外の住民の利用の掘り起こしは必要。（項目6と共通）	C	・子どもの意識を変えるためにも、学校図書館の充実、学校司書の配置が必要。 ・出張貸出に行けない学校へは、別の形で何らかの働きかけをしてほしい。 ・withコロナの時代の図書館の在り方を考える必要がある。図書館に滞在できない。
			R1(2019)	1,180人			R1	995人	C		B	
			R2(2020)	1,190人			R2	924人	C			
		「提言」の該当箇所	R3(2021)	1,190人			R3					
		(1)	R4(2022)	1,200人			R4					
8	問い合せ	資料に関する問い合わせ件数、 レファレンスに関する認知度・満足度	H30(2018)	件数5,180件 認知度50% 満足度70%		①日常の窓口業務の目配り ②フロアワーク ③アンケート（認知度・満足度を計る）	H30	件数6,137件 認知度65% 満足度97%	A	■件数：前年比　△1,203件 ■認知度：前年比　+9% ■満足度：前年比　±0% ■より気軽に司書へ声を掛けられる環境の整備が必要	A	・読書相談の件数には本の場所を聞かれた件数も含まれており、館内表示の改善など考えるべき部分もある
			R1(2019)	件数5,250件 認知度52% 満足度74%			R1	件数6,840件 認知度63% 満足度97%	A		A	
			R2(2020)	件数5,300件 認知度60% 満足度80%			R2	件数5,602件 認知度71% 満足度97%	A			
		「提言」の該当箇所	R3(2021)	件数5,300件 認知度60% 満足度80%			R3					
		(3)	R4(2022)	件数5,300件 認知度60% 満足度80%			R4					
9	蔵書	郷土資料、地域資料の受入冊数	H30(2018)	420冊/年	R2　児童滋賀　　8冊 児童野洲　126冊 一般滋賀　340冊 一般野洲　296冊	①市役所各課作成資料の収集 ②市HP上の資料の受入等 ※資料が出るかどうかという外的な要因によって受け入れ冊数が変動するため、数値は働きかけの部分を強化する方向で検討	H30	576冊	A	■前年比　+275冊 冊数が大幅に増加したのは、市役所各課への提供依頼により資料の寄贈を受けられたこと、および新型コロナ休館の際に未整理資料の選及入力を進めることができたことが大きい。 ■市役所各課への提供依頼　業務用パソコンの掲示板で定期に依頼を開始。 ■市内企業向けに、各社資料の提供依頼にも取り組んでいく必要がある。	A	・郷土資料や地域資料のデジタル化は進めないのか。 ・国会図書館のように、紙資料をデジタルで見られるようにならないか。 ・市内の企業の広報誌やパンフレットなどの資料の収集もしてはどうか。
			R1(2019)	420冊/年			R1	495冊	A		A	
			R2(2020)	420冊/年			R2	770冊	A			
		「提言」の該当箇所	R3(2021)	420冊/年			R3					
		(2) (13)	R4(2022)	420冊/年			R4					
10	集会行事	おはなし会参加人数	H30(2018)	1,070人	館内での職員実施のおはなし会の参加人数で積算（学校等から依頼があって館内で実施したものは除く）	①新型コロナウイルス感染症対策で10月まで中止。11月から予約制人数制限で一部再開。	H30	1,216人	A	■新型コロナウイルス感染症対策で10月まで中止。11月から予約制人数制限で一部再開。 ■令和3年4月から予約不要、人数制限で実施。状況に合わせて開催方法を検討していく。	A	
			R1(2019)	1,100人			R1	784人	C		B	
			R2(2020)	900人			R2	34人	D			
		「提言」の該当箇所	R3(2021)	900人			R3					
		(4) (5)	R4(2022)	1,150人			R4					
11	連携事業	関係機関、団体との連携事業	H30(2018)	18回/年	資料の特設や展示など。 R2　本の特設19回、展示4回、展示協力1回	①掲示板による呼びかけ等	H30	23回	A	■掲示板上の呼びかけを行うものの、知らなかったといわれることもある。他課職員との接触があるときに積極的にPRするなど工夫が必要 ■行政機関以外との連携も視野に入れる必要がある	A	
			R1(2019)	18回/年			R1	21回	A		A	
			R2(2020)	19回/年			R2	24回	A			
		「提言」の該当箇所	R3(2021)	20回/年			R3					
		(12) (13)	R4(2022)	20回/年			R4					
12	障がい者サービス	郵送貸出、宅配の実利用者数	H30(2018)	7人	サービス対象の手帳保持・要介護者：総計1687名（手帳保持R1年度、要介護R2年度） 図書館利用カード登録者でサービス対象者数は不明	①HP等での広報 ②関係機関へのPR ③当事者、支援者向けのPRイベントの実施 ④入院先の病院への宅配実施	H30	9人	A	■入院している人への病院への貸出のケースがあった。 ■サービスを知ってもらうためのPRイベントを継続して開催予定。	A	・循環バスを物流に活用しバス停まで資料を運ぶなど、来館が難しい高齢者、免許返納者への対応を工夫できないか。
			R1(2019)	9人			R1	11人	A		A	
			R2(2020)	14人			R2	11人	B			
		「提言」の該当箇所	R3(2021)	16人			R3					
		(8) (9)	R4(2022)	18人			R4					

13	接遇	職員の対応についての満足度	H30(2018)	85%		①接遇研修の実施 ②日常業務の中での改善 ③職員の意識の向上	H30	96%	A	■前年比+1%(アンケートの結果) ■アンケートの自由記述だけでなく、日常のカウンター業務の中で発生する様々な事例を教材に、改善を進める ■健常者ための接遇だけでなく、障がいをもつ利用者への接遇方法についても研修の機会をもつ必要がある	A	・多様な利用者への対応等、外部講師による研修の必要性は向上する。幅広く対応をお願いしたい。
			R1(2019)	86%			R1	97%	A		A	
			R2(2020)	90%			R2	98%	A			
		「提言」の該当箇所	R3(2021)	90%			R3					
		(15)	R4(2022)	90%			R4					

＊図書館協議会の「提言」の番号は「提言」ｐ6の「野洲図書館のこれからのサービスのあり方」の項目番号。

＊上記目標に入っていない項目は（16）施設・設備（17）図書館情報システム。どちらも毎年検討し、予算化されたものは実施している。

評価基準	
A	目標を達成できた
B	目標をある程度達成できた
C	目標をあまり達成できなかった
D	目標をまったく達成できなかった

＊評価の期間は５年。目標設定は５年後を設定し、それに向けて1年ごとの目標値を定め、毎年評価を実施する。

＊評価の方法：図書館で自己評価を実施。（毎年４月末まで）それを元に、図書館協議会に外部評価を実施してもらう。

＊貸出冊数に関する目標数値は社会的要因によるところも大きいため、県内図書館の状況とも比較して評価を行う。（県内の公共図書館の平均数値との比較など）